

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「相手に分かりやすいように、あんないの手紙を書こう」 教材名「気持ちをこめて、「来てください」」

2 単元の目標

丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。（〔知識及び技能〕(1)キ）

間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（B(1)エ）

来てほしい相手に、目的と必要な情報が伝わる案内文を書く学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。（〔知識及び技能〕(1)キ）	①「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）	①来てほしい相手に、目的と必要な情報が伝わる案内文を書く学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確認めながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

来てほしい相手に、目的と必要な情報が伝わる案内文を書く。この教材では、修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

教師作成の短い案内で、日時が抜けた文と語が重複した文を比べる。読み手の質問を記録し、書き手が目的を確認して採用する修正を選ぶ。想定する難しさは、誤字だけを見て内容の不足を残す、理由なく友達の文を直す。評価では、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えているかを、修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全4時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 教師設定の学校の催しを例に、相手・目的・日時・場所・してほしいことを選ぶ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3 （本時）	○教師設定の学校の催しを例に、相手・目的・日時・場所・してほしいことを選ぶ。案内の下書きを読み合い、必要な情報の抜けと言葉遣いを直す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第3次	4	○読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (2/4)

(1) 本時の目標

間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。(B(1)工)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 ○「相手が来るために、どんな情報と気持ちを伝える必要がありますか」 【めあて】来てほしい相手に、目的と必要な情報が伝わる案内文を書く。 〈予想される児童の反応〉 ・ 自分は知っているが相手には説明が足りない。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「相手が来るために、どんな情報と気持ちを伝える必要がありますか」 教師設定の学校の催しを例に、相手・目的・日時・場所・してほしいことを選ぶ。案内の下書きを読み合い、必要な情報の抜けと言葉遣いを直す。 読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・ 自分は知っているが相手には説明が足りない。 ・ 同じことを繰り返している。 ・ 順を変えると出来事が分かる。	教師作成の短い案内で、日時が抜けた文と語が重複した文を比べる。読み手の質問を記録し、書き手が目的を確認して採用する修正を選ぶ。 想定する難しさ：誤字だけを見て内容の不足を残す、理由なく友達のを直す。 評価では、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えているかを、修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認め。 〈予想される児童の反応〉 ・ 順を変えると出来事が分かる。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認め。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「相手が来るために、どんな情報と気持ちを伝える必要がありますか」。中央は、修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

